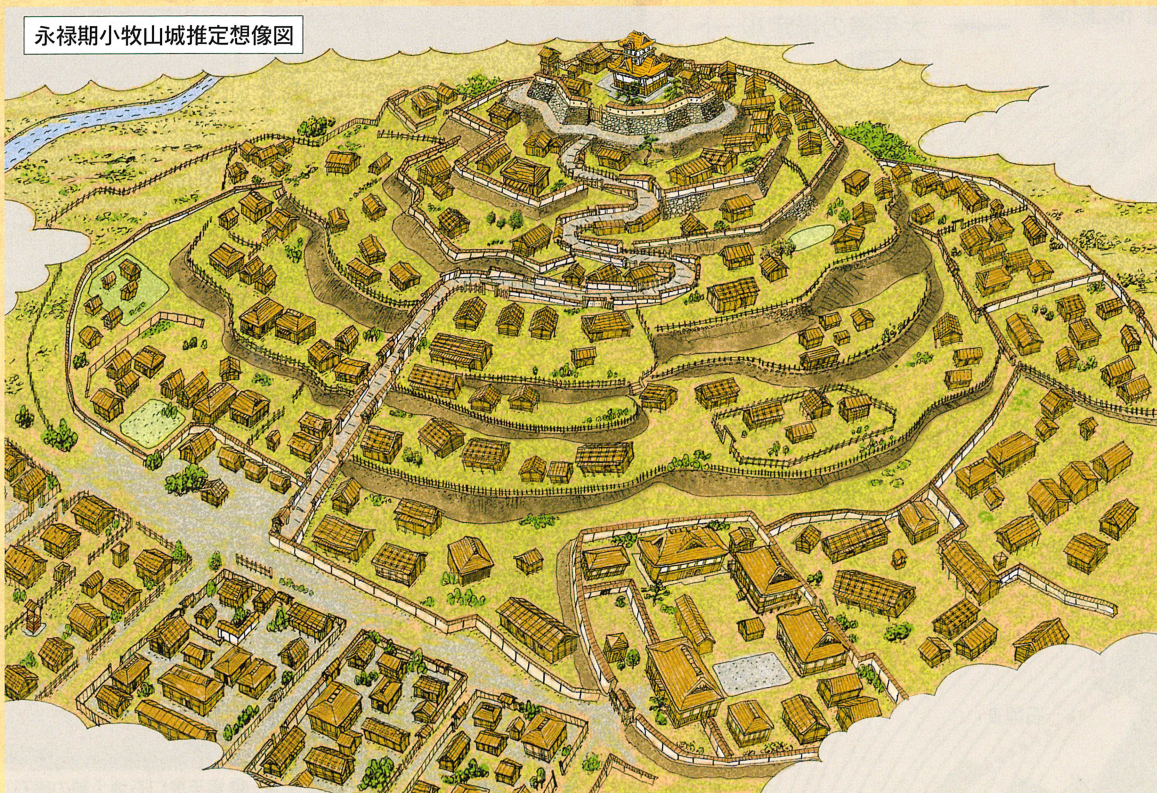


山牧山城

石垣がかたる信長の城づくり
主郭地区発掘調査から

信長の小牧山城の姿は？

永禄期小牧山城推定想像図



小牧山城で見つかった石垣は、安土城の石垣に先行し、信長がすでに尾張段階で城郭に石垣を採用するという意図をもって築いていることがわかりました。山頂には何らかの建物があったと考えられますが、現在その位置には小牧山歴史館があり、当時の様子を知ることはできません。ただ、発掘調査では瓦が出土していないことから、建造物があったとしても瓦葺の建物ではなかったと考えられます。

これまでの信長の小牧山城は、わずか4年の居城期間から、美濃攻めのための簡易な砦と考えられていました。しかし、城の南に城下町が計画的に整備されたという調査結果と併せて、清須から居城と町を一度に移転させるという信長の「尾張国首都移転構想」とも言うべき壮大な計画が存在したことがうかがわれるのです。

信長の野望と小牧山城

「城」という字が「土」と「成」でできているように、信長以前の城は土を掘ったり（＝堀）、盛り上げたり（＝土塁）した戦闘・防御のための施設でした。その施設に信長は石垣を採用し（小牧山城）、瓦を葺いた建物を建て（岐阜城）、その集大成として安土城を作り上げたのです。信長は城に対して単なる戦闘施設という枠を超え、政治機能を持ち、権力・権威の象徴としての建築複合体、つまりモニュメントとしての役割を持たせたものと思われます。信長により城は「戦う城」から「見せる城」へ劇的に変貌しました。信長が作り出した新しい城の概念はその後近世城郭に継承され、我々がイメージする城へと続きます。

史跡小牧山の調査と整備について

小牧市教育委員会は、平成16年から小牧山歴史館周辺の発掘調査を実施してきました。それらの成果を踏まえ、令和3年度から石垣等の復元整備を行っています。

令和3年度には歴史館北側で、信長築城時の主郭をめぐる2～3段の石垣（上段・1段目を「石垣Ⅰ」、中段・2段目を「石垣Ⅱ」、下段・3段目を「石垣Ⅲ」、と呼称）、石垣Ⅱの前面に石櫓遺構、玉石敷などを復元しました。翌4年度は、岐阜城に面する主郭北西部の石垣Ⅰ、石垣Ⅱ、虎口と考えられる部分の石垣を復元しました。

大手道沿いには、小牧山本来の岩盤を加工して切り立て、その上に石垣を積んだ部分がありました。そこで5年度は、築城当時の岩盤面を露出させて、この部分の石垣や大手道の一部で確認した玉石敷、小牧・長久手の合戦時に築かれた土塁を復元しました。

6年度以降も発掘調査や整備工事が続きます。園路の迂回や通行止め等ご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

お問合せ先 小牧市教育委員会事務局 小牧山課
〒485-8650 愛知県小牧市堀の内三丁目1番地
TEL(0568)76-1623



小牧山城（国指定史跡 小牧山）は、天正12年（1584）小牧・長久手の合戦で織田信雄・徳川家康連合軍の本陣となったことで知られています。しかし、それを遡ること21年前の永禄6年（1563）に織田信長が初めて自らの手で築き、岐阜に移るまでの4年間居城した城でもあります。史跡整備に伴う発掘調査により明らかになりつつある、信長が築いた当時の小牧山城の姿を紹介します。

信長天下統一への過程と城郭

年 代	信長年齢	できごと	城郭名	信長築城か？
弘治 元年(1555)	22歳	清須城入城	清須城：石垣なし	×
永禄 3年(1560)	27歳	桶狭間の戦いで今川義元を討つ		
永禄 6年(1563)	30歳	小牧山城築城、清須から移る	小牧山城：石垣構築	○
永禄10年(1567)	34歳	稲葉山城攻略、岐阜城と改め小牧山城から移る	岐阜城（千畳敷）：巨石石積	改修
天正 4年(1576)	43歳	安土城築城開始	安土城：総石垣	○
天正10年(1582)	49歳	本能寺の変		



大手道に築かれた石垣・切り立てられた岩盤